



岐阜のいなかに赴任して、ちよつと十年になります。一歳になつたばかりの一人娘を連れて、妻と三人で雪深い診療所へ赴任しました。妻は自治医大の同級生であり、内科医でもあります。

現在は合併して飛騨市となりましたが、以前は河合村、宮川村と、隣接した村の診療所へそれぞれ派遣されました。二つの診療所間は、車で十分余り、走つて二十五分(一九九九年の台風災害時に実際に走りました)。とても近く通勤や生活する上では、ありがたいものでした。

共働きの悩み...

どうしても、共働き世帯で悩むことといえば、子供の面倒をみてくださる人や施設があるか

たくさんの人に支えられ...

どうかだと思ひます。私立の保育園があるわけでもなく、祖父母が協力してくれる

状況でもなかつたのですが、幸いにも妻の赴任した河合村で、娘の面倒を見ていただける方が見つかったのです。ちよつとわれわれの両親と同世代のご夫婦で、「夜間や時間



地元の河合スキー場からみた北アルプスの山々。雲海も見える

根尾 浩 14期生、1991年卒

岐阜県飛騨市宮川診療所

【私の勤務地】岐阜県の北端で富山県に接する豪雪地帯。観光名所は、板倉と棚田が残る種蔵集落と飛騨まんが王国がある。同王国は、国内外の漫画約3万5000冊を、床に寝そべったり、くつろいだりしながら自由に読める図書館のある温泉宿泊施設。

人情と団結力と

今日までに、二度の台風災害(激甚災害指定)を経験しましたが、それぞれの診療所間で国道、JRが数力所に及んで寸断されてしまいました。そのように、数日にわたつて泊まり込みの待機、診療を行わなければならない時でも、あるいは子供たちがインフルエンザにかかつて

外で呼ばれたときも預かるから」と言つてくださり、とてもありがたかったです。私と妻と同時に夜間呼び出されたことが幾度かありましたが、眠つたまの娘をそつと預けて朝までお願いしました。

それから、二人の男の子にも恵まれ、保育園へのお迎えもしていただきました。「おばちゃん」の家に泊まるから、帰らない」と言ひ出されたときには、妻と顔を見合わせて、困りましたけど。

家族ぐるみでスキーを教へていただいたり(園長さんご夫婦はスキーの有資格者・指導者)、祭礼や地域の活動の中に、上手に私たち家族を迎えていただいております。

当地は、台風災害や豪雪によつて「陸の孤島」となることがあります。団結力や忍耐力の強さも感じられます。赴任前には分かんかったことばかりですが、たくさんの方に支えられて生活させていただいているとあらためて分かります。

いても、いつも笑顔で快く預かつていただきました。

また、地元の河合保育園の園長さんが、未満児保育を始めてくださったのも、いなかにも長い間お世話になるきっかけだったようにも思ひます。いつもニコニコ顔(アンパンマン似)で、子供たちを迎えていただける、河合の元気印のような園長さんなのです。

本当に、毎日感謝の気持ちで生活させていただいてます。

(次回予定は島根県)